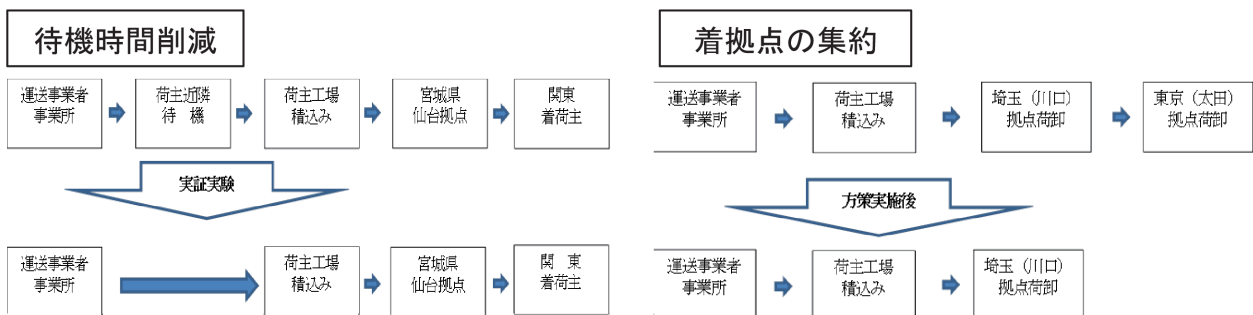


3. 課題

- ①他工場からの鶏卵の到着時間が予定より多少前後することなどがあり、本社工場での積み込み時間を調整するために、事前に本社工場近隣に到着して長時間待機しているケースが見られる。
- ②運転日報に「休憩」などの記載がないため、運転日報の記録上では4時間以上の連続運転が発生している（タコグラフでの検証は行っていない）。
- ③関東のセンターが2カ所あるため2カ所での荷卸しが必要となる運行が行なわれており、拘束時間が長時間化するケースがある（改善基準告示の範囲内）。

4. 事業内容

- ①積み込みスケジュールに合わせて運送事業者の事業所を出発することで拘束時間の短縮を実現する。
- ②運転日報を詳細に記録する。
- ③関東での荷卸し場所が1カ所になるような仕組みを検討する。



5. 結果

- ①待機時間の廃止により、拘束時間が「115分（削減率15.5%）」削減した。
- ②関東での1カ所卸しについては実証実験は実施できなかったが、シミュレーションの結果から「66分」の削減が期待できることが明らかとなった。

6. 荷主企業のメリット

- ①運送事業者とのパートナーシップが高まった。
- ②荷主は、4月下旬から埼玉センターへの機能の集約を計画している。現在の配送サービスを維持するためには、増車や配送距離の延長などで物流コストは増加するが、幹線（長距離輸送）ドライバーの労働環境改善（拘束時間短縮）のために、機能の集約を進めると判断された。
- ③これにより、人手不足・トラック確保難の中でも安定した輸送量を維持できる。

7. 結果に結びついたポイント

- ◇荷主が物流の重要性をよく理解され、コストを負担しても輸送力確保のための方策実施を進めた。
- ◇運送事業者が事業の趣旨を鑑み、ドライバーの習慣の改善を進めた。